

2020 年 9 月 23 日

本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020 年 8 月分)

外貨建て投資信託の純資産総額が 5 か月連続で増加

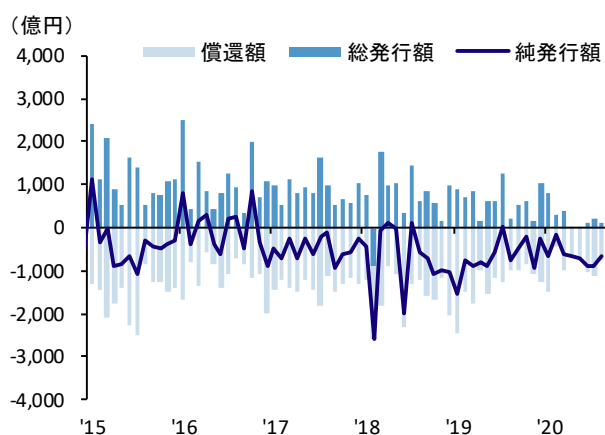
- ブルームバーグのデータによると、8 月の売出債(個人投資家向けの外貨建て債券)総発行額は+130 億円、償還額は+776 億円となり、総発行額から償還額を差し引いた純発行額は▲646 億円と 13 か月連続で償還超となった(図表 1)。
- 売出債の 2020 年の純発行額(8 月までのデータを年率換算、以下同じ)は▲7,826 億円の償還超となった。通貨別に見ると、オーストラリアドル建てが▲2,079 億円の償還超となった。また、米ドル建てが▲1,256 億円の償還超となったほか、ブラジルレアル建て(▲899 億円)、トルコリラ建て(▲773 億円)、メキシコペソ建て(▲557 億円)なども償還超となった(図表 2)。
- 投資信託協会によると、外貨建て投資信託の純資産総額(為替評価調整後)は前月の 28 兆 2,493 億円から今月は 29 兆 9,177 億円に増加した。
- 25 通貨中 15 通貨で純資産総額の増加が見られた。通貨別では、米ドル建ては前月の 19 兆 8,186 億円から 20 兆 8,848 億円へと増加した。また、ユーロ建ても前月の 2 兆 5,482 億円から 2 兆 6,716 億円へ、オーストラリアドル建ても前月の 1 兆 6,471 億円から 1 兆 6,494 億円へ増加した。(図表 7)。
- 新興国通貨では、インドルピー建ては前月の 7,651 億円から 7,741 億円に増加した。また、ブラジルレアル建てが前月の 3,069 億円から 3,115 億円に増加した。そのほか、南アフリカランド建てが前月の 522 億円から 538 億円へ、人民元建ても前月の 277 億円から 291 億円に増加した。一方、トルコリラ建ては前月の 716 億円から 685 億円に減少した(図 7、8)。
- 金融先物取引業協会の店頭外国為替証拠金取引および東京金融取引所の取引所為替証拠金取引のデータによると、8 月の個人投資家による為替証拠金取引ネット・ポジションは買い持ち高が前月の 1 兆 3,754 億円から 9,475 億円へ縮小した(図表 9)。
- 通貨別では、米ドルの買い持ち高は前月の 1 兆 3,957 億円から 1 兆 2,563 億円へ縮小した。オーストラリアドルの買い持ち高は前月の 1,710 億円から 654 億円へ、英ポンドの買い持ちは前月の 1,305 億円から 368 億円に縮小した。そのほか、ユーロの売り持ち高は前月の▲3,998 億円から▲4,389 億円へ拡大した。カナダドルの買い持ち高は前月の 566 億円から 357 億円に縮小した。

市場営業部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔
03-3242-7065
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

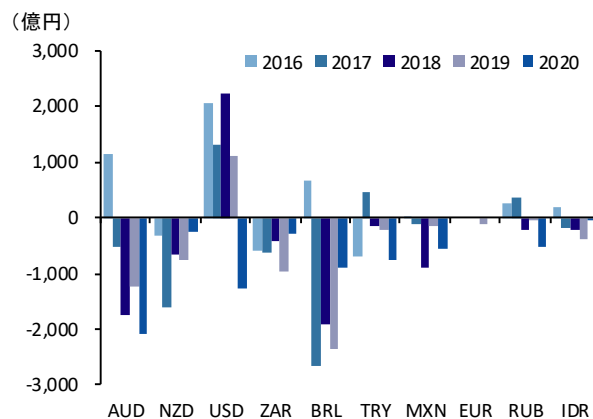
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

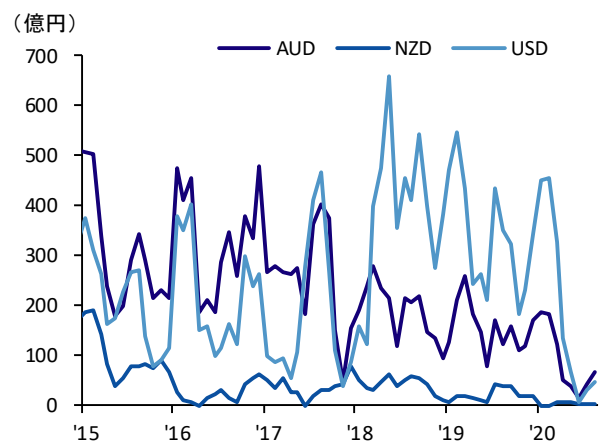
図表 1: 売出債(外貨建て)の発行額・償還額


出所: ブルームバーク、みずほ銀行

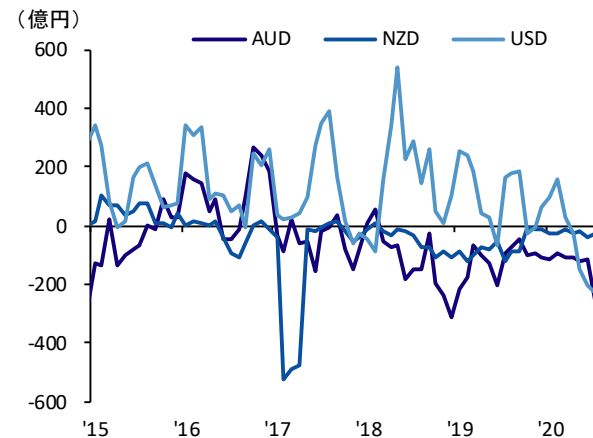
図表 2: 売出債の年間純発行額(通貨別)


注: 2020 年 8 月までのデータを年率換算。

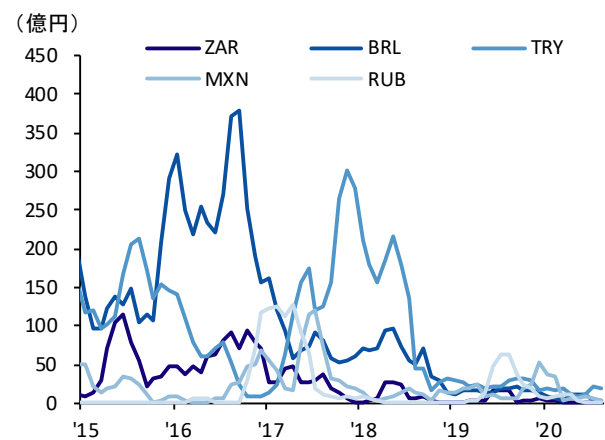
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

図表 3: 売出債の総発行額(先進国、3 か月移動平均)


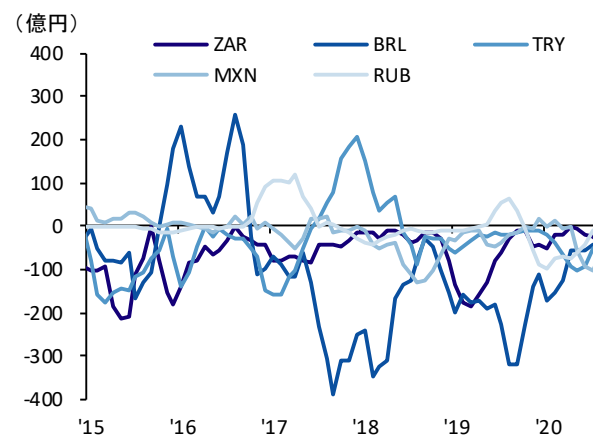
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

表 4: 売出債の純発行額(先進国、3 か月移動平均)


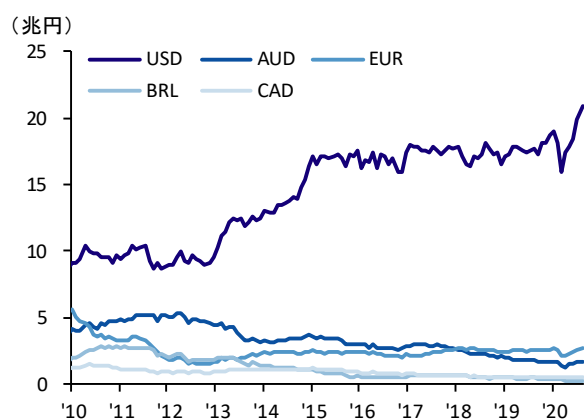
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

図表 5: 売出債の総発行額(新興国、3 か月移動平均)


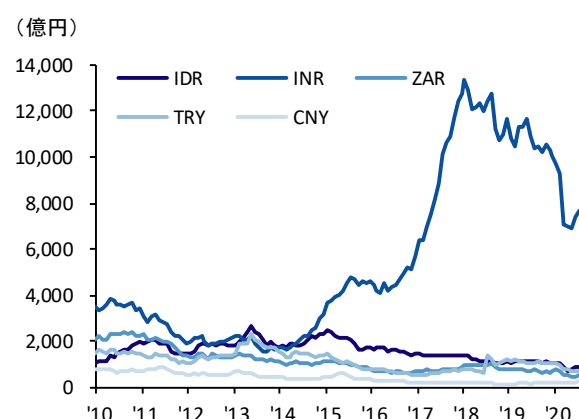
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

図表 6: 売出債の純発行額(新興国、3 か月移動平均)


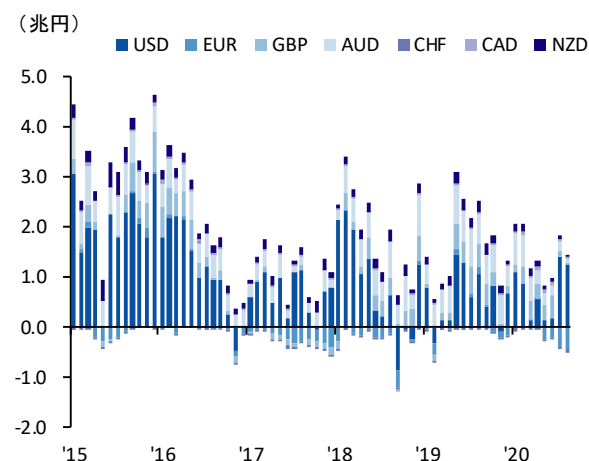
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

図表 7: 投資信託の純資産残高(USD,AUD,EUR,BRL,CAD)


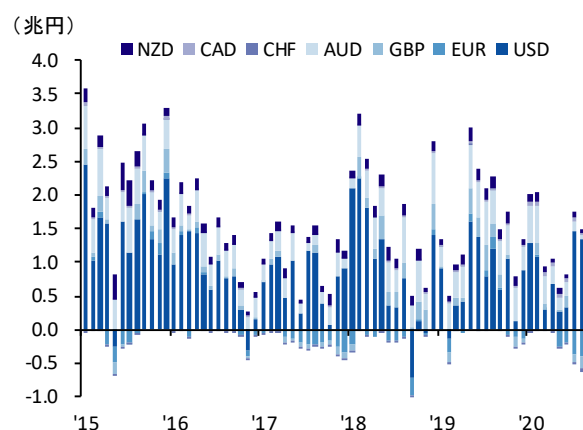
注: データは為替評価調整後。
出所: 投資信託協会、みずほ銀行

図表 8: 投資信託の純資産残高(IDR,INR,ZAR,TRY,CNY)


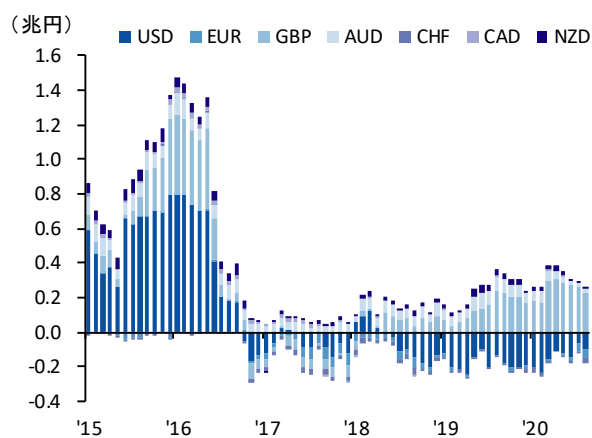
注: データは為替評価調整後。
出所: 投資信託協会、みずほ銀行

図表 9: 為替証拠金取引ポジション(FFAJ、TFX 合算)


出所: 金融先物取引業協会、東京金融取引所、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 10: 店頭外為証拠金取引ポジション(FFAJ)


出所: 金融先物取引業協会、みずほ銀行

図表 11: 取引所為替証拠金取引ポジション(TFX)


出所: 東京金融取引所、ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2020年9月23日	越冬リスクという論点～安全資産「金」の薄さ～
2020年9月18日	週末版(通貨高に苦しむECB～通貨政策化する金融政策～)
2020年9月17日	FOMCを終えて～日銀に似てきた情報発信
2020年9月15日	アベノミクスからスガノミクスへ～マクロ政策からミクロ政策へ～
2020年9月14日	マネー急増から何を読むべきか～「インフレの芽」なのか？～
2020年9月11日	週末版(ECB政策理事会について～実感する「ECBの日銀化」と「ユーロの円化」～)
2020年9月9日	過去の後退局面と何が異なるのか？～米雇用の深手～
2020年9月8日	ECB政策理事会プレビュー～ユーロ高けん制に動か～
2020年9月7日	米8月雇用統計から何を読むか～「宿泊・飲食」の深手～
2020年9月4日	週末版
2020年9月3日	アベノミクス総括その②～なぜ円安になったのかを知るべき～
2020年9月2日	「真のリスクオフ通貨」になれるかの瀬戸際～試されるユーロ～
2020年9月1日	アベノミクス総括～「金融政策の無効性」という「地味な偉業」～
2020年8月28日	週末版(FRB戦略見直しとパウエル講演について～「アベレージ・ターゲット」という現状追認～)
2020年8月26日	腰折れたままの米消費者マインド～株価に連動しない誤算～
2020年8月24日	ECB政策理事会議事要旨～PEPP「全部使う」が公式見解～
2020年8月21日	週末版(FOMC議事要旨を受けて～ほぼ完全に否定された米国版YCC～)
2020年8月20日	米大統領選挙・議会選挙と為替市場の関係について
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年7月分)
2020年8月18日	「ドル化した世界」におけるドル相場の限界
2020年8月17日	ECBの資産購入運営の現状～PSPPとPEPPの乖離～
2020年8月14日	週末版(ユーロ/ドルは購買力平価(PPP)に向かっているのか？～「1.20」台復帰を目指して～)
2020年8月12日	2020年上半期の円の基礎的需給環境について
2020年8月11日	全てを押し上げているのは実質マイナス金利なのか？
2020年8月7日	週末版
2020年8月4日	米製造業マインドよりも心配な米消費者マインド
2020年8月3日	「ユーロにあって円に無いもの」～基軸通貨性を考える～
2020年7月31日	週末版
2020年7月28日	「ドル売りの受け皿」がテーマ～過去最大の欧米逆転～
2020年7月27日	ユーロ上昇の理由～金利差縮小よりドル過剰感～
2020年7月22日	週末版
2020年7月21日	欧州銀行の貸出態度調査～ロックダウンの深手～
2020年7月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年6月分)
	臨時EU首脳会議で透けて見えた「第三の亀裂」
2020年7月17日	週末版(ECB政策理事会を終えて～PEPPは使い切り、「2つの機能」に向けて～)
2020年7月16日	ユーロ相場の近況について～上昇の瀬戸際～
2020年7月15日	臨時EU首脳会議～交錯する「2人の議長」～
2020年7月14日	円相場の基礎的需給環境の現状と展望
2020年7月13日	ECBプレビュー～ラガルドインタビューは現状維持を示唆～
2020年7月10日	週末版
2020年7月9日	カレンシーボードに迫る脅威～米国の「諸刃の剣」～
2020年7月8日	増枠分の天井に近づいたECBの拡大資産購入プログラム(APP)
2020年7月7日	対外直接投資はこれからも増えるのか？
2020年7月3日	週末版(明らかに「物価差なき世界」～金利と共に失われる為替の変動要因～)
2020年7月2日	金価格が上がっている理由～リスクオフという方便～
2020年7月1日	円相場の需給環境～ストック円高、フロー円安～
2020年6月26日	週末版(IMF、GFSR改訂を受けて～「実力以上の株価」という必要悪～)
2020年6月25日	ユーロ相場はなぜ堅調なのか？
2020年6月23日	メルケル首相に託されたEU復興基金の先行き
2020年6月22日	ECB、「真のバズーカ」と「影の政策金利」
2020年6月19日	週末版
2020年6月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年5月分)
	香港ドル相場の現状と展望～ベッグ崩壊の現実的な可能性は～
2020年6月17日	二番底はメインシナリオの1つとして見るべきか
2020年6月15日	29年連続「世界最大の対外純資産国」の読み解き方
2020年6月12日	週末版(EU首脳会議プレビュー～メルケル首相への花道論も～)
2020年6月11日	FOMCを終えて～当分失われそうなドル/円のボラティリティ～
2020年6月9日	米国はいずれ通貨政策に訴えかけるのか？～特権の行使～
2020年6月8日	金利上昇を容認したFRBと視野に入るYCC
2020年6月5日	週末版(ECB政策理事会を終えて～2022年末までバランスシート残高は高止まり～)
2020年6月4日	明らかにされたパンデミック緊急購入プログラムの全貌
2020年6月3日	米個人消費・所得、急変動に透けて見える日本化の胎動
2020年5月29日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～PEPPに孕む隠蔽リスク～)
2020年5月27日	最近の元安・ドル高相場の読み方
2020年5月26日	IMF「国際金融安定報告」続報から読み取れるもの
2020年5月22日	週末版(EU復興基金設立の現状と展望～立ちはだかる「新ハンザ同盟」の壁～)
2020年5月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年4月分)
	コロナショックは反グローバルの「とどめ」なのか？
2020年5月19日	アフターコロナの世界で定着しそうな「皮肉な株高」
2020年5月15日	週末版(マイナス金利を正当化したECB論文～「次の一手」としての深掘りを予見させるものか？～)
2020年5月14日	不安を吐露したパウエル議長とマイナス金利の足音
2020年5月12日	独憲法裁判所の判断とECB買い入れ近況について
2020年5月8日	アフターコロナはインフレか？デフレか？
2020年5月7日	アフターコロナで注目したい世界の「日本化」兆候
2020年5月1日	週末版(ECB政策理事会を終えて～形骸化する政策金利と「次の一手」～)
2020年4月28日	日銀金融政策決定会合を受けて～同調圧力への対応～
2020年4月24日	週末版(原油急落に感じる株・為替市場との差異～原油に「ごまかし」は効かず～)
2020年4月22日	拡張財政と「ドルの信認」～目先の下落は濃厚か？～
2020年4月21日	資本逃避スピードはリーマンショックの倍に～IMF報告～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年3月分)
2020年4月17日	週末版(「The Great Lockdown」で最も傷が深いのは欧州か？～IMF世界経済見通し～)
2020年4月15日	ECBの「次の一手」はYCCも視野に～工夫も必要～
2020年4月14日	「超リスクオフ」から「リスクオフ」へ～改めて米金利を意識へ～
2020年4月10日	週末版(明らかにになったECB資産購入の実情～このペースではあと半年が限度～)
2020年4月9日	英国のEU離脱はどこへ～移行期間は延長不可避の情勢～
2020年4月7日	「金利差なき世界」のあるべき視座～big picture～
2020年4月6日	「悲観の極み」の中で「光」をどう見出すべきか
2020年4月3日	週末版(「令和元年度 企業行動に関するアンケート調査」を受けて～かすかに暗雲漂う円相場～)